令和元年度インターンシップ報告集

あこがれの手

第２０号

（令和元年度　一色高校写真部撮影）

『あこがれの手』という表題は、平成１３年３月に卒業した梶川千恵子さんのインターンシップ体験文の中から引き出されて付けられたものです。とても素敵な響きがします。さまざまな物を運んだり、作ったり、人に指示したり、人を優しく眠らせたり、そして言葉をも語ったりする手は、人間活動を象徴する身体で、梶川さんはその特性を見事に捉えてくれました。

先人たちの思い～働くということ

校長　村瀬　正幸

文筆家の池田晶子は、かつて、中高生向けに書いた著書『14 歳からの哲学-考えるための教科書』（トランスビュー、2003 年）の中で、次のようなことを書いています。

「生きるためには食べなければならない、食べるためには稼がなければならない、そのためには仕事をしなければならない、この＜しなければ」の繰り返しが、大人の言うところの＜生活＞だ。【X】＞」

生徒の皆さんだったら、この【X】にどんな言葉を書き込みますか。

発明王のエジソンだったら、「でも、私は一日たりとも、いわゆる仕事などしたことがない。何をやっても楽しくてたまらないからだ。」と答えるだろう。

政治家のチャーチルだったら、「私たちは、得ることで生活をし、与えることで生きがいを作る。」と答えるだろう。

重複障害者であるヘレン・ケラーだったら、「私は素晴らしく尊い仕事をしたいと心から思っている。でも私がやらなければならないのは、ちっぽけな仕事をも素晴らしくて尊い仕事と同じように立派にやり遂げることなのだ。」と答えるだろう。

詩人のゲーテだったら、「人生に成功する秘訣は、自分が好む仕事をすることではなく、自分のやっている仕事を好きになることである。」と答えるだろう

これらの先人たちの言葉に触れてみると、仕事をすること、働くということは、どうやら、それぞれの人の生き方・人生と深く関わっていることに気付きます。

このインターシップの記録集には、参加された皆さんの感じたこと、考えたことが素直に語られています。それらを読み返してみて、【X】に何を書くか、生徒の皆さんは、もう一度考えてみてください。

ちなみに先の池田晶子は、【X】に、「しなければならなくてする生活、生きなければならなくて生きる人生なんかが、どうして楽しいものであるだろう。」と書いています。

最後になりましたが、20 年以上の歴史をもつ本校のインターシップの取組は、今年もハローワーク西尾、商工会と各事業所の皆様に大変お世話になり実施することができました。関係の皆様にお礼を申し上げますとともに、この体験を通して生徒が学んだこと、感じたことを「あこがれの手」第 20 号にまとめましたので、ご高覧のうえご指導いただければ幸いです。キャリアプランニングができる学校作りに向けて、相変わらぬご支援、ご協力をくださいますようお願い申し上げます。

アイシン機工株式会社　（西尾市吉良町）

普通科　２年６組　狩野　雄飛
（西尾市立吉良中学校出身）

今回のインターシップで訪問したアイシン機工吉良工場では、他のアイシンの系列の会社に送る部品を製造しています。吉良工場では主に AT(オートマティック・トランスミッション)という自動変速機を、刈谷工場ではドアロックなどの製作をしていると伺いました。そして次に分かったことは、アイシン機工が従業員の方々に対して、特に安全・安心を心がけているということです。私たちも現場に入る前に安全教室と安全道場という講習会を受講し、作業に就く際には「呼ぶ・止める・待つ」という安全心得と「動いているものに手を出すな・動こうとするものに手を出すな・動かす手から目を離すな」という安全三訓を学びました。現場では、いつ何が起こるのか分からないので、自分だけで判断して行動してしまったり、慣れてきた時に一番事故が起きやすいので、よそ見をせずに一つ一つ集中して作業に取り組むことが、事故を防ぐ心得だと理解しました。

現場での作業は AT のギア部分の点検を実際にラインに入って行いました。機械が部品の加工を全て行っており最後に人の目で部品に不備がないか点検します。少しでもキズやでっぱりがあると、自動車事故や様々な部品トラブルにつながるため、部品の細かい部分にまで目を通し集中して作業することを特に注意しました。ずっと立って作業をしたせいか、足に疲労が蓄積したと感じました。私は５時間程の作業でくたくたになりましたが、従業員のみなさんは、その倍も作業を続けているので、自分の体力のなさを痛感しました。３日目の作業も同じことを行いましたが、２日目よりも作業のスピードが上がっていると同じ担当場所の職員さんに言われて、とてもうれしかったです。自分の担当をしてくれた職員のみなさんは、緊張していた自分に対して、とても明るく優しい言葉で接してくださいました。そのおかげで大きなストレスもなく、明るい職場の雰囲気だったこともあり、作業内容を早く習得することができました。

私はこの３日間を通じて、アイシン機工株式会社や他のアイシンの系列の会社が、何を具体的に作っているのか、会社が従業員の皆さんのために心がけていること、事故を未然に防ぐ工夫など、さまざまなことを学びました。働く方々への気遣いも、自動車業界のトップ企業となった理由の１つではないかと思いました。事業所内の設備もよく、自分に接してくれた職員の方々も、みなさんとても優しい人ばかりでしたので、インターンシップ前の自分の想像以上に、よい会社だと思いました。最初の出だしで失敗をしてしましたが、その分作業に力を入れて頑張りました。事業所の方から「失敗した分を取り返そうと必死に頑張っていた」という評価をいただきうれしかったです。失敗したらそれで終わりではないということを身をもって知りました。３日間の経験で得たものを今後の自分の人生に生かしていきたいと思います。

普通科　２年６組　杉浦　翔耶
（西尾市立西尾中学校出身）

僕はアイシン機工株式会社でインターンシップを行いました。インターンシップに参加した理由は、将来自動車関係の仕事に就きたいと思っており、どのような仕事をするのか実際に確かめてみたいと思ったからです。

インターンシップは 3 日間行いました。1 日目には就業作業などはなく、会社説明と器具の取り扱い、そして安全教室を受けました。会社説明でアイシン機工が主にオートマチ

ックトランスミッション（AT）の部品を製造している会社だと知りました。AT は車などのギアチェンジを行う機関の変速機のことです。検査器具の取り扱いでは、ノギスやマイクロという器具を使い部品の内径や外径、穴の深さなどを測りました。ノギスは少しでも力が強いとずれが生じてしまうので、同じ力加減で測るのが難しかったです。その次に安全教室を受けました。安全教室では「社内のルールを守る」「仲間の身を守る」「自分の身は自分で守る」という内容があり、自分自身がいつも周囲に注意していれば、大きな事故や怪我などは未然に防げるのではないかと思いました。実際の事故や怪我は「災害」と呼ばれ、原因を追究して二度と起きないように徹底されていました。その日はそれから工場見学を行いました。工場の中にはさまざまな機械があり、床も油で滑りやすくなっているので、常に気を付けていないと危険だということが分かりました。

２日目はいよいよ就業体験実習なので、安全に注意を払い、常に確認してから作業しました。２日目は材料投入の体験をさせていただきました。材料をコンベアに乗せる作業ですが、一定間隔でコンベアは動くので、タイミングを見て材料を投入しないと部品を落としたり、指が挟まってしまう可能性がありました。そのため、動いているときには手を近づけないようにしました。そして異常時は「止める・呼ぶ・待つ」ということを守るように教えていただきました。この作業は二ヶ所を行ったりきたりして材料が減っていないか確認して投入する内容なので、ずっと立ちっぱなしで足が棒のようになりました。アイシン機工で働く方々は、毎日立ちっぱなしの作業が多いので、すごいなと思いました。

３日目は２日目に引き続き、材料投入の作業を行いました。昨日気を付けていたことを、しっかりと実践して、怪我や事故等もなく無事に終わりました。３日間会社の就業規則をしっかりと守り、日々前向きに作業に取り組めました。

最後にインターンシップでお世話になった工場の方々と、人事部の方々に御礼を伝え、アイシン機工でのインターンシップを終えました。僕は今就職するのか進学するのかで悩んでいますが、この３日間は自分の中でとても大きな判断基準となりました。将来の進路を選択する際に、この貴重な体験を活かしていきたいです。

株式会社　オティックス　　（西尾市中畑町）

普通科　　２年４組　山﨑　颯大
（西尾市立西尾中学校出身）

僕は、オティックスの幡豆工場でインターンシップをしてきました。オティックスは主にエンジンの部品を作っている企業です。

インターンシップ一日目は、企業全体や安全についての講習と、作業を行いました。ここでは、オティックスとは何をしている企業か、理解を深めることができました。また、オティックスには安全道場という、事故を防ぐための学びの場があり、大変印象に残りました。オティックスはとても安全に気を配っている企業です。例えば、15 ㎏以上は 2 回までしか運んではいけないとか、手を挟んだ時の対処法など、自分では気が付かないような注意点がありました。軽い気持ちで作業してはいけないことを安全道場を通して感じました。部品を入れる箱作りは、難しいことではないと僕は思っていました。ただ単に箱を作る作業で、ここでも安全に配慮しており、担当の方が「少しでも怪我をしたら何をして何で怪我をしたか教えてね」と言われ、とても気にかけていただきました。次に箱を、ダンボール箱の中に板を敷いてその中にビニールシートを入れる作業をしました。説明を聞い

たときは簡単に聞こえましたが、やってみると意外と難しく、ガムテープの長さやダンボールと板が同じ数なので一枚でも余るとラインが止まってしまいます。少しでも気を抜いてしまうと大変なことになるので、とても気を付けました。箱を作りすぎてはいけないので、きちんと数を見ながら作り、リフトが走っているので左右を見て箱を運び、一日目が終わりました。

二日目は一日目とほとんど同じ作業をしました。一日目と異なっていたのは、箱を作る材料の補充はダンボールと板の数が一緒なのかを確認して補充した点です。箱を運んでいる時や昼休憩などの時に「ここ滑るから気を付けてね」「今から昼休憩だから食堂に行ってご飯を食べてきなさい」と、優しく声をかけていただき緊張がほぐれる場面もありました。

三日目は、一，二日目とほとんど同じ作業でした。三日目の午後は、オティックスの本社の建物を見て、トヨタ会館の見学をしてオティックスで作られた部品が最終的にトヨタ自動車に使われていることを教えていただきました。こうして、インターンシップは終わりました。

インターンシップを通して学んだことは、仕事の雰囲気は想像以上にすごかったこと、コミュニケーションはとても大事ということです。自分は緊張すると、質問をされても答えられないことがあります。学校生活の中でより多くの経験を重ねることで、克服していきたいと考えています。また、貴重な体験をさせていただいたオティックスの皆様に感謝の気持ちが絶えません。ありがとうございました。

普通科　　２年５組　中嶋　空椰
（西尾市立吉良中学校出身）

インターンシップ初日の午前中はオリエンテーションで、オティックス社がどのような会社で、どれくらいの規模なのか、また、何を作っているのかなどを教えてもらいました。オティックスは愛知県に７つの工場があり、中国、タイ、インドネシア、アメリカにも工場があるそうです。そこで主にエンジン部品を作っていて、動弁系部品はトヨタ自動車でほぼ１００％使われているそうです。

午後からは、安全道場というところで、工場内で気を付けなければいけないこと、やってはいけないことを教えてもらいました。工場にあるものは、ほとんどが電気で動いていて、たとえ手がはさまったとしても動くので、指の切断など大事故になったりすると言われ、気を付けようと思いました。他にも、明日から行うことになる運搬の仕方を教えてもらいました。いろいろな種類の部品を運ばなければいけなくて、とても難しかったこともあり、翌日からできるのか不安になりました。

２日目の午前は、運搬の仕事をする人の近くで、その日の作業について教えていただきました。大きな箱の部品が６つ、小さな箱の部品が数十個もあり、覚えるのが大変でした。その他にも、カードを差し替える作業もしなければいけなかったので、本当に自分にでき

るのかなと思ったけれど、午後には一人でしっかりとできるようになりました。

午後からは、運搬の仕事の他に、部品を機械に入れる仕事をさせてもらいました。この仕事は難しいわけではないけれど、素早さが求められるうえに落としたり向きを間違えてはいけないので、集中力が必要でした。朝からずっと働いていたので、終わる時間の少し前には集中も途切れがちになり、とても疲れました。これを毎日している方々はすごいと思いました。ミスも多くしてしまったので、最後の日はミスをしないようにしたいと思いました。

最終日は、午前中まで前日と同じ仕事をしました。前日反省したように、最後なのでミスしないように心がけ、集中してやったところ、ミスなくできたのでとてもうれしかったです。午後からは、トヨタ会館に行きました。会館では、セグウェイや車のシミュレーションゲームなどを体験しました。とても難しかったけれど、楽しむことができました。その後、いろいろなトヨタ車を見てインターンシップが終わりました。

インターンシップに参加してみて、それぞれの作業がつながっていることがわかりました。部品一つ一つに対してそれを作っている人がそれぞれいるわけで、たくさんの部品が集まって、大きな車になるので、一つ一つの作業がとても大切だということがわかり、とてもいい経験になりました。

阪部工業株式会社　　（西尾市中畑町）

普通科　　２年２組　彌田　正明
（西尾市立鶴城中学校出身）

自分が三日間インターシップを行って感じたことは、普段よりも時間が進むのが早くて、とても大変なことが多かったけれど、大変充実した三日間だったということです。

まず、一日目は午前に上矢田第一工場と第二工場と本社の工場を見学させていただききました。そこで実際に作業している所を見て、鋳造の仕方など、自分が初めて知ったことがたくさんありました。午後からは、二日目から自分たちが作業する所に行き、色々加工している所を見学させていただきました。

二日目からは、午前と午後は、加工場に入って実際に作業させていただきました。最初

の台は、簡単で、すぐにできるようになったけれど、二台目の台はなかなか慣れることができませんでした。ペースはあまり速くはなかったけれど、時間が経つにつれて徐々にこの作業に慣れてきたので、午前中のペースより速くできたのでよかったと思います。

三日目も、午前と午後で、作業をさせていただきました。二日目よりも速く作業することを目標にしました。二日目よりも速く作業ができていたと思いますが、二日目と三日目の作業で、唯一ミスをしてしまったことがありました。それは修正液で印を付ける時に、液をたくさん出しすぎてしまったことです。毎回毎回ミスはあまりしていないけれども、たまに失敗してしまった時にはとても申し訳ないと思いました。

この三日間で、最初に思ったことは、がんばって働いてお金を稼ぐことはとても大事だということです。自分は、毎日学校に行って勉強をしていて、あまりこのようなことを考えることはありません。しかしこの三日間でそのことをとても強く感じました。

もうひとつは、社員の皆さんにとても優しくしてもらったことです。二日半、自分たちの面倒を見てくださった江本さんは、親しみやすくて、話しやすい方だと思いました。一緒に作業をしてくださった社員の方も、優しく丁寧に教えてくださり、体調の心配もしてくれました。この優しさをこれからの生活のお手本にしていこうと思います。

この三日間で、自分は成長した点があります。まず一つ目は、集中力が上がったことです。インターシップに行く前は、授業などで、あまり集中できていなかったのですが、インターシップを通じて、以前より集中できるようになったと感じています。

二つ目は、物を丁寧に扱えるようになったことです。自分が作業したレーンは、ぶつけたりすると、へこんだり傷がついてしまうので物を丁寧に扱う必要がありました。そのため、三日間で物を丁寧に扱う癖がつきました。今回の三日間を通して学んだことをこれからの普段の学校生活に活かしていきたいと思います。このインターシップは本当にいい経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

普通科　　２年５組　下﨑　皓郁
（西尾市立鶴城中学校出身）

僕は、鋳造や加工を行う阪部工業株式会社でインターンシップを三日間行わせていただきました。

一日目は、午前中に会社概要や鋳造についての座学でした。その後、上矢田工場本社の見学をさせて頂いて、昼食をとりました。さらに加工場でいろいろな説明を受け、工場内を見学し、休憩室でお話を伺うという内容でした。座学では立石さん指導の下、しっかりと「鋳造」や会社の概要、歴史について学ぶことできました。そこで創業年数や資本金、従業員数、会社の主な仕事内容、鋳造のメリ

ットなどを教わりました。工場見学では、工場の製造ラインや１５００度まで熱して溶かした鉄を容器に流しいれるところなどを見ることができました。食堂には、暖かい白飯や味噌汁、おかずや、ドリンクバーなどがありました。昼食をとったあと、加工場へ行き、工場のラインや仕事内容を聞いた後、実際に見に行きました。油を使う場所で発熱を防ぐことができること、重さが違うものでも傷つきやすさや製造工程がまったく違うことを教えていただき、作り方や素材によって物の質も変化することが分かりました。最後に休憩室で細かな説明を聞いた後に、出身校や住んでいるところなどの雑談を楽しみました。

二日目は、実習作業に入りました。僕は、マウントケース加工の最初の工程を担当しました。最初は差し込むときの向きや一つ一つの行動に細心の注意を払って行いました。しかし、なかなかうまくいかず、慎重になりすぎて素早く作業できませんでした。そのときラインに入っている皆さんが、コツや「もっとここを意識したほうがいい」と色々なアドバイスを下さったお陰で何とかやることができました。

そしていよいよ最終日の三日目。この日はひたすら実習で、昨日の筋肉痛も重なり、足の痛さがなかなか取れませんでした。そのときにラインのリーダーの岩瀬さんが「歩き続けると足の痛みが和らぐ」と教えてくださり、実践したところ仕事に集中することができ、無事三日間を終えることができました。

この三日間で一番反省していることは、時間を守ることができなかったことです。特に朝、時間に遅れてしまい皆さんに迷惑をかけました。社会人になったとき、遅刻すると周りの作業も遅れてしまい、自分一人ですむことではないので、今後は時間を守るだけでなく早めに余裕をもって動くことを心がけたいと思います。

三日間の実習は大変なことも多かったですが、周りの人に助けてもらいやりきることができました。それを通して考えたことは、周りの人とうまくやっていくためには、時間を守る、挨拶をするなどコミュニケーションをとる、身だしなみを整えることが大事だと思いました。このことをこれからの学校生活で生かしていきたいです。

三日間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

柴田工業株式会社　　（西尾市下矢田町）

普通科　　２年３組　岩附　快音
（西尾市立鶴城中学校出身）

僕はインターンシップで柴田工業という車の部品の製造などをする工場に行きました。

１日目の午前中では工場見学をして担当の方に説明してもらいながら見学をし、その後にカバーマスタシリンダという車の部品を箱詰めする作業をしました。午後は車の部品が詰められた箱をパレットに乗せ、ハンドリフトで指定された場所に持って行くという作業を繰り返しました。また、これらの部品が入った箱に商品名や製造した月日が書いてある紙をはさむところにはさんでいく作業もしました。１日目を振り返ってみて、僕は油で滑りやすくなっている部品を数回落としてしまったり、ハンドリフトを上手く使えなかったりと失敗ばかりしてしまい、申し訳ない気持ちになりました。同時に２日目では失敗を減らそうという気持ちが生まれました。

２日目は１日目とは違うブッシングベーン約 8,300ｇ分を入れて、指定された場所に運ぶという作業をしました。午後は３槽式自動真空機という車の部品についた油を取る機械に部品を入れる作業をしました。この機械は３回行程があり、１回目の行程では超音波を

使って表面についた油を取ります。２回目の行程では真空で空気を抜き、水につけて１回目でとりきれなかった油を取ります。３回目の行程で部品についた水を蒸発させて油を完全に取り除きました。この機械を通して油を取り去った部品を、それが積んである場所に運ぶことを繰り返して２日目は終わりました。２日目を振り返ると、これらの機械を使用するには毎日点検があるということを知り、とても大変だということを思い知らされました。

３日目の午前中ではプレスという作業をしました。コアの部品の横や縦の長さをＤノギスやＤダイアルやＤマイクロといった測定器を使って計る作業をしました。午後にはコアの箱詰めをして３日間のインターンシップが終わりました。

インターンシップ３日間を振りかえって思ったことは、人と人とのコミュニケーションが大事だということです。初めは分からない事が多く、そのような時に自分から積極的に聞いていくことが必要だと感じました。僕は早く学校を卒業して、仕事に関する勉強をしたいと思いました。担当の方には、僕を気遣ってか明るく話しかけてくださり、とても助かりました。お昼の弁当は、コンビニ弁当より美味しく感じました。貴重な体験をさせていただき、大変感謝しています。ありがとうございました。

普通科　　２年５組　岩月　崇斗
（碧南市立碧南新川中学校出身）

一日目の実習内容は箱詰め、プレス作業などです。プレス作業は、プレスする機械にどんどん部品を入れていく作業です。箱詰めは、箱・容器に数をそろえて部品を入れていく作業です。一日目の反省・感想は、積極的に行動できなかったこと、心構えができていなかったこと、実習先の事業内容をよく理解していなかったこと、職場の方々とコミュニケーションなどがうまくとれなかったことなどです。したがって、明日以降はできなかったことをしっかりとできるように頑張って活動していきたいと思いました。

二日目の実習内容はハンドリフト作業、運搬などです。ハンドリフトとは重たい荷物などを転がして運んでいく機械のことです。二日目の目標は自分から積極的に動いて、挨拶などをしっかりとやっていくことです。二日目の反省・感想は午前中にはしっかりやれたと思うけれど、午後から気が抜けていたところがあり、また、職場の方々とのコミュニケーションがうまくとれなかったです。だから、三日目は十分に睡眠をとり、午後までしっかり積極的に行動できるようにして、最終日なので、悔いが残らないように、全力で活動していきたいと思いました。

三日目の実習内容は部品の洗浄、荷物運びなどです。部品の洗浄は、部品の日付を確認

して洗浄する機械に入れる作業です。荷物運びは、洗浄した部品を運んでいく作業です。三日目の反省・感想はいつもと違い午前中だけでなく、午後までしっかりと気が抜けることなくできました。それは、十分睡眠をとったからだと思いました。あと僕が失敗しても、笑顔で優しく接してくれた職場の方々には本当に感謝しています。そして、三日目は職場の方々とお話もしました。話をした時は、とても楽しく思い出に残りました。

三日間、本当にありがとうございました。僕は、高校を卒業したら就職して工場で働きたいと思っています。今回の柴田工業の体験で本当にいろいろなことがわかりました。柴田工業で体験した三日間のことを忘れずにこれからの学校生活を頑張っていきたいと思います。

普通科　２年５組　加藤　晴明
（西尾市立吉良中学校出身）

中学校の職場体験とはまるで別のようなものでした。より本格的で、「ミスしてはいけない」と強く感じる、責任が求められる作業でした。なにより、一人で担当する仕事なのか、と驚かされるような仕事の量でした。これが就職なんだなと改めて強く思いました。

また、僕の指導担当となった方には大変お世話になりました。僕の座右の銘となるほどの言葉をおっしゃっていました。例えば、「急ぐとあわてるは違う、これだけで仕事の質も変わる」という言葉でした。今の今まで僕のしてきた速さは、ただあわてていただけでした。僕の場合、急ぐといっても、ただ早くすればいい、それが急ぐことと思っていましたが、実はそれはあわてるに分類されることが分かりました。この方法だと何かやり忘れたり、失敗したりすることが頻繁に起こるようになります。いわゆる、迅速さは増しますが、正確さはなくなるということです。

この職場体験で人生が一変しました。なぜなら、よくしてしまう凡ミスの原因がこれだとやっと理解できたからです。かといって普段の生活や仕事にすぐ活かせると言えばとても難しいとは思います。しかし、原因が分かっただけで未来が見えました。他にも指導担当の方は、「ただ仕事をするだけでなく、なぜやるか、それを考えたり、理解した上でするとやりがいや楽しさが生まれる」ともおっしゃっていました。あの方の言葉はすべて僕の心に響きました。職場体験を通じて一日で学んだことはたくさんありました。かつ自分の足りない点も明確になりました。勉強だけでなく、こういった面も磨いていくべきだと改めて分かりました。

そして、お水がとても美味しく感じました。工場内は暑すぎて、体力の消耗が激しかった上、重いものなどを運搬したので、本当にお水が美味しく感じたのです。反面、少しも空腹を感じず、食欲が無かったのですが、御飯がとても温かくて、お味噌汁も温もりを感じました。親切なお昼御飯でした。

この職場体験で、親身になって御指導下さった上に、人生の指針となる言葉をいただいて、自分のためになることばかりでした。就職はとても大変で、夏なので特に暑くて水分が足りなかったけれど、中学の職場体験と違い、より実際に近い、本格的な体験をさせていただきました。工場の仕事はつらいし、疲れたと感じることが多かったです。しかし、仕事とは何か、いろいろ質問して返ってくる言葉に重さがあって、ミスしたくないという気持ちも高まり、責任感はかなりもてたと思います。このインターシップに参加していな

かったら、このつらさと、自分の駄目な所、仕事とは何か、など色々気付かずに過ごし後の人生で大きくマイナスになったことでしょう。自分が疑問に思っていたことを色々聞けたし、人生の勉強にもなりました。インターシップに参加できてよかったと心から感じています。

株式会社　杉浦製作所　　（西尾市寺津町）

普通科　　２年２組　山﨑　皓太
（西尾市立一色中学校出身）

僕は７月３０日から８月１日までの３日間、株式会社杉浦製作所でインターンシップをさせていただきました。僕がインターンシップに申し込んだ理由は、働くとはどういうことなのかを実際に感じてみて、１年後の進路選択に役立てようと考えたからです。

１日目は、どんなことを学べるのだろうかという好奇心と、ミスをせずにやっていけるだろうかという不安が自分の中で混在していました。午前中は、ガイダンスや現場安全教育についての講習を受けました。ルールを守ることでどのような事故や失敗を防げるのか、現場にどのような危険が存在しているのかを学ぶことができました。午後からは、工場全体を見てまわり、その後、現場実習をさせていただきました。工場には数え切れないほど多くの機材があり、非常に驚きました。初日の現場実習は、工場内の掃除をしました。自分としてはきれいにすることができたと思います。

２日目からは、本格的に部品を扱う作業が始まり、とても大変でした。最初に教えていただいたのは加工する金属の計量です。計量では、金属を持ち上げる時とにかく重く、最初は持ち上げることができませんでした。しかし、担当の方に持ち方や運び方を教えていただき、効率よく計量作業をすることができるようになりました。計量の後は、出荷という作業に移りました。出荷作業は、要望に沿った数の箱を指定の場所へ運ぶ作業で、僕が一番苦戦した仕事です。出荷作業の後は、僕の担当をしてくださった係長の方が、前日のガイダンスの内容に関するクイ

ズを出してくださいました。クイズに完璧に答えることができず、まだ仕事に関する理解が浅いなと感じました。その後は担当の方と工場を見学してその日の実習を終えました。

最終日は、品質チェックの紙の差し替え・出荷・プレス・計量を行いました。紙の差し替えはそれをする必要のある紙が自分が思っていたより少なく、意外でした。プレスは専用の機械を使いました。使い始めは少し緊張したけれど、少しずつ作業に慣れ、機械を扱えるようになりました。特に手順を間違えないように注意をして、作業に取り組みました。

今日まで、仕事に対する理解を深める機会は何度かありましたが、今回のインターンシップに参加し、仕事というものをより深く理解できたと思います。このインターンシップで学んだことこと、教わったことを進路選択や将来の仕事に活かしていきたいと思います。

普通科　　２年６組　中山　亜由美
（西尾市立平坂中学校出身）

私は杉浦製作所でインターンシップをさせていただきました。私が杉浦製作所を選んだ理由は、母がどのような仕事をしているのかを実際に体験して知りたいと思ったからです。

一日目は、古居工場でオリエンテーション・会社概要説明・現場安全教育講習に参加しました。オリエンテーション・会社概要説明で、杉浦製作所が扱っている部品や売上について教えていただきました。加えて、労働災害やその原因についてのお話もあり、非常に勉強になりました。お話の中で特に興味深く感じたのは、労働災害です。労働災害は主に二つの要因に分けられます。その二つとは不安全な状態と不安全な行動です。不安全な状態を正す方法の一つに５Ｓという取り組みがあります。５Ｓとは、多くの製造会社でも徹底されているようで、とても大切なことであると感じました。５Ｓは整理・整頓・清掃・清潔・躾の五つを指しています。そして不安全な行動を正すためには一人一人が、意欲の欠如・服装の軽視・保護具の付け忘れなどに注意して働く必要があると学びました。工場見学の前に現場安全教育講習を受け保護具の重要性を身をもって感じました。

二日目は、就業前に社員全員でラジオ体操をしました。そのような取り組みがなされていることに少し驚きました。私は、午前中に部品の組み合わせをしました。作業始めは、少し余裕がありましたが、時間が経つに連れ、背中が痛くなり、大変な作業であることを身に染みて感じました。昼食の時間は、同じ仕事をする社員の方々と一緒に昼食をとり、色々なお話を聞くことができました。午後からは、バリ取りの作業を行いました。バリ取りは、部品の組み合わせの時とは違い、立った

まま行う作業だったので、非常に大変でした。

最終日は、一日を通して NC(切削)という作業を行いました。私にとって三日目が特に大変でした。NC とは、機械に部品をセットし、穴を開ける作業のことです。切削の後に、出来上がった部品の長さを計る作業がとても難しかったです。

この三日間で私が学んだことは、仕事は一人ではできないということです。職場の人たちとの教え合いや助け合いが非常に大切であり、そのために挨拶は欠かせないことであると感じました。また、規律を守ることの重要性にも気付くことができました。この三日間を通して、杉浦製作所で学んだこと、教わったことを将来の進路選択に活かしていきたいと思います。

丸藤精工株式会社　　（西尾市鵜ヶ池町）

普通科　　２年２組　平山　唯
（西尾市立吉良中学校出身）

私は、今回のインターシップにおいて、丸藤精工様に行く前は、三日間大丈夫かな、失敗したりしないかなと緊張と不安でいっぱいでした。しかし、当日行ってみると従業員のみなさんは笑顔で優しく接してくださり、丁寧に教えていただいたおかげで不安な気持ちもなくなり、三日間頑張ることができました。

一日目は、作業の仕方を教えていただきました。私が行ったのは、リアヨークという部品の箱詰めでした。一箱にたくさんの部品を詰めていったので、詰め忘れがないように集中して作業しました。一日目は朝八時三十分から始まり夕方の四時三十分までずっと立った姿勢のまま、リアヨークの箱詰めをしました。今までずっと立ったままということがなかったので、作業していた時は足に痛みは感じませんでした。しかし、家に帰ったとき足がとても痛かったです。あとは、ずっと下を向いての作業だったので、首と肩にも痛みがきました。

二日目も同じリアヨークの箱詰めをしました。二日目は従業員の方々に早く行うコツを教えていただきました。一日目は穴に一つずつ入れながら向きをそろえていましたが、一度にたくさんの量をとり、全部向きはそろえず穴に入れていき、全部うまったら向きを直すと早くなるよと教えてもらい、試してみると一日目よりも確実に作業の流れが早く、スムーズに行うことができました。二日目は工場長さんに私が箱詰めしているリアヨークという部品がどこで使われているのかを教えて頂きました。リアヨークという部品は、車のガソリンのところに使われていて、今箱詰めしている状態の部品は小さいけどこれから他の部品と組み合わさり、大事な部品になると教えていただきました。小さな部品でも、傷がついていたり、その部品がもしなければ、車が成り立たないということを教えていただき、私が行う作業は箱に詰めるだけの作業だけど、大事な部品を扱っているので、気を付

けないとならないということが分かりました。二日目は早く作業する方法を教えていただいたので、一日目よりも多くのリアヨークを箱に詰めることができました。

三日目も同じリアヨークの箱詰めを行いました。工場長さんから、三日目はなれてくる頃だから、向きがそろっていなかったり、穴に入っていないようなミスがないようにと言われ、今まで以上に集中して箱詰めをしました。集中していたこともあり、三日目は予定より早く終わらすことができました。

この三日間で現場での体験ができ、箱に詰める作業でしたが、楽しかったです。そして色々な作業員の方達が教えてくださり、三日間があっという間でした。今回のインターシップで、一つ一つを大事にし、作業は早くスムーズに行うことが大切だと分かりました。いつも父たちは、立ったままでずっと働いているのですごいと思いました。私は高校を卒業して就職しようと思っています。そして丸藤精工様のような現場で、大変かもしれませんが働いてみたいと思いました。丸藤精工様で三日間貴重な体験ができてよかったと思います。

普通科　　２年４組　牧野　佑亮
（西尾市立西尾中学校出身）

僕がインターンシップを通して思ったこと、感じたことを紹介します。

一つ目は、自分の就職に関する考えについてです。この三日間は正直とても大変でした。だからこそ就職先を決める時、本当に自分に合っているか、続けることが可能かどうかも考慮して決めなければいけないなと思いました。

二つ目に感じたことは、インターンシップを体験することは改めて大切と思いました。これは、やってみないとわからないのですが、実際の仕事の一つ一つの作業がとても大変で、慣れないうちはすぐに疲れてしまうと思います。だから、改めて今回、インターンシップを行ったことは、とても意味のあるものになりました。

三つ目に、とても良かったと思えた所がありました。インターンシップで丸藤精工様へ行かせていただき、三日間の作業を体験して、最初は当然分からないので、教えてもらうのですが、一つ一つを分かりやすく丁寧に教えてくださり、とても分かりやすかったのですぐに覚えることができました。また分からないことに対してもきちんと対処してくださり、とても実りのある三日間になりました。

また嬉しかったこともありました。それは話しかけてくれた人がいたことです。人との会話は、たわいもないことでも、話すことで人の心が腐らないようにすることだと思います。周りは知らない人だらけで、話をしてきてくれたことは、とても嬉しく、このようなことが、あるだけで仕事も頑張れるような気がしました。

自己評価は、一日目は覚えること、しなければならないことがたくさんあって、とにかく大変でした。だから、作業スピードは遅かったと思います。しかし、丁寧にやるように気を付けました。二日目は、一日目で遅かった作業スピードも出来るだけ早く正確にやれるようにがんばりました。三日目も同じように行い、さらにスピードをあげました。

とても沢山の体験をさせていただき、大変ではありましたが、とても意味のある三日間にできたと思います。この三日間の経験を踏まえて、自分の選択肢を広げ、将来に生かしていきたいです。

株式会社　あいや　　（西尾市上町）

生活デザイン科　２年１組　杉山　蓮
（西尾市立鶴城中学校出身）

私は卒業後就職したいと思っています。「働く」という体験をするのにとてもよい機会だと思い、今回のインターンシップに参加しました。

１日目の最初に、工場のカッパの着方から工場に入るまでの過程を教わりました。工場に入ってからは、抹茶の粉が入った袋の袋閉じをしました。大きな袋の形を整えながら空気を抜いて、その整えた形を保ったまま袋の口を閉じることがとても難しくて大変でした。袋が大きく大事な抹茶の粉が中に入っているので、その抹茶に気を付けて慎重に作業をしました。教えてくださった職場の方々の手際の良さに驚きました。その次に、小さい袋の形成をしました。教えてもらいながらやりましたが、難しくてひとつひとつの形成作業に時間がかかってしまいました。

昼休憩は、人事部の方々と一緒にさせていただきました。私は人と話すことへの苦手意識があるため、緊張してしまい余計な力が入ってしまいましたが、皆さんが優しく話しかけてくださったので、リラックスして話すことができました。私も、その苦手意識を少しでもなくし、誰とでも親しみやすく話せるようになりたいと思いました。昼休憩が終わってからは袋の形成を続けて行いました。午前中にやっていたこともあり、だんだんとコツを掴むことができ、少しペースを上げて作業ができるようになりました。慣れない立ち仕事だったので足腰が痛かったです。また、ずっと手作業だったので両手とも疲れ、痛かったです。日ごろの運動不足と自分の筋力のなさを改めて実感しました。

２日目は、前日と同じ袋の形成をやりました。１日目にコツが掴めていたのでよいペースで行えました。次に、抹茶の粉が入った袋を缶に詰める作業をしました。缶に詰めていくときに、缶の繋ぎ目で袋が破れてしまわないように慎重に行いました。その次に、抹茶が入った缶の底を閉じ、フタをつけるという作業をしました。缶の底を閉じる際に専用の機械を使用したので、怪我をしないように気をつけて底を合わせていきました。底を閉じるときに合わさっていないのに機械に置いてしまい、きちんと確認して作業が出来ず、失敗しそうになってしまいました。何事もやるべきことに集中し、正確にできるようにしていきたいです。

今回、２日間のインターンシップを終えて私が学んだことは二つあります。

一つ目は工場で働くためには、集中力が必要だということです。同じ作業をミスするこ

となく、効率よく進めるためには、繰り返し作業し、コツを掴まなければなりません。コツを掴むまでに時間もかかります。集中力を高め、作業が持続できるようにしていきたいです。

二つ目は経験することの大切さです。私は複数のことを一度に行うのがとても苦手です。今回経験したようにひとつのことを黙々と作業をすることが自分によくあっていると分かりました。

２日間のインターンシップに参加し、働くための心の準備も出来ました。自分の進路について真剣に考えていきます。

株式会社　岩谷電機製作所　　（西尾市東幡豆町）

普通科　２年５組　松田　陽菜
（西尾市立平坂中学校出身）

私は、岩谷電機製作所へインターシップに行き、井戸用のポンプについて学びました。そこで色々な部署を体験させていただきました。１日目は、購買部と技術部、２日目は、総務部と品質保証部、３日目は、製造部と生産管理部です。

１日目、午前の購買部では、意外なことばかりでした。部品は購買部という専門の部署で購入すること、部品を出荷するためのダンボールも買わなければならないことなどです。全く想像していませんでした。部品の仕分けの体験をさせてもらい、ルールがあることが分かりました。午後の技術部ではポンプの部品を実際に見て、その設計図を自分で作図してみました。また、試作ポンプが正常に動くかの確認をしました。これらのことは製造する前に必要なことだと思いました。

２日目は、午前に総務部での体験を行いました。総務部は、想像していたより難しくパソコンは本当に大事だと実感しました。パソコンを主とした仕事なのでタイピングを早くしなければならない、と学びました。また、総務部で食堂の準備をするとは思っていませんでした。午後の品質保証部では、届いた部品の確認、寸法を測る作業でした。寸法を測るとき使った道具の読み方が難しく大変でしたが、正解したときの達成感がたまりませんでした。会社を裏から支える部署を学べて良かったと思いました。

３日目は、午前製造部を体験しました。やはり怪我をしないようたくさんのルールがありました。事故が起きないためには、どれも大切だと理解できました。その後作業を少しやらせてもらいました。２時間の立ち仕事で足がパンパンになりました。一日中やっていたらどんなに疲れるのだろうと感じました。午後の生産管理部では、包装作業をやらせてもらいました。包装では、入れ忘れがないように工夫されており、とても感心しました。包装のときに商品を傷つけないよう丁寧に入れていくことが重要だと学びました。

この３日間で学べたことはとても多かったです。短い間でしたがとても疲れたので、両親はこれを毎日やっていると思うと大変だと感じました。実際に体験しないと分からなかったです。両親に感謝です。そして、３日間、お世話になり、新しいことに気付く機会を下さった岩谷電機製作所にも感謝します。学んだことを少しずつでも自分のものにできるようこれから頑張っていこうと思います。

普通科　２年５組　吉田　鮎美
（西尾市立平坂中学校出身）

私は、インターンシップで岩谷電気製作所という事業所へ行きました。そこでは主に、ポンプを製作しているということは知っていましたが、それ以外のことはわかりませんでした。どのような仕事をするのか、自分はしっかりできるか期待と不安がありました。

一日目は、社内案内をしていただいた後で購買部に行きました。購買部とはどういうところなのかあまりわかっていませんでしたが、必要な部品を買うところかなと想像していました。実際には部品を買うだけでなく在庫管理や棚卸も行われていました。購買部についての説明を受けた後、部品の回収、組み立て、返品の作業を行いました。部品の回収、組み立てについてはスムーズに行きましたが、返品はどの棚がどの部品なのか分からず手間取りました。返品する時も次に使う人のことを考えて入れるなど、普段気にしないことをしていたので驚きました。午後から技術部に行きました。最初に部品やポンプの図面を見た後、自分たちも一つの部品を作図してみました。作図をするにもほかの人に何の部品か伝わらなくては意味がないので、とても難しかったです。

二日目は、製造部に行きました。安全についての説明を聞いた後、危険予知訓練シートというものを書きました。初めて書くのでとにかく自分のわかる範囲で書きました。しかし内容としては不十分でした。午後から品質管理部でした。ノギスという道具を使って部品の寸法を測りました。メモリがうまく読めなくて悪戦苦闘しましたが、とてもよい経験

でした。

三日目は、総務部にいきました。総務部では掃除当番表の入れ替え、お弁当の入力、食堂のお茶だし、お昼の準備、タイムカードの作成、就業時間入力，FXS という会計ソフトの入力などとても多くの仕事を体験させていただきました。特に難しかったのは、就業時間入力と FXS 入力でした。就業時間は人によってさまざまで、それを全部計算するのは難しかったです。FXS 入力はよくわからなくてどうしたらいいのか困りました。午後は生産管理部に行きました。生産管理部では主に包装を行いまた。単純作業でもお客様の元に届くので気を引き締めて行いました。

三日間体験して思ったことは、やはり仕事は大変だということです。覚えることも学校の授業よりも多くて複雑でした。包装の仕事をしているとき、途中で座らせていただきましたが、本来は立って行う仕事だったので、長時間同じ作業をすることはとても大変だろうと思いました。そのような仕事を何年も続けられる事業所の方はすごいなと改めて感じました。学校ではなかなかできないことを体験させていただきました。インターンシップで経験したことをこれからの学校生活に生かしていきたいと思います。

寿金属工業株式会社　　（西尾市法光寺町）

生活デザイン科　　２年１組　筒井　明日香
（西尾市立一色中学校）

私は今回のインターンシップで学んだことがたくさんあります。一日目に座学を受け、そこで寿金属さんが作っている製品の作り方を教わりました。それはたい焼きを作る時のように型にアルミを流し込んで作るというもので、イメージがしやすいように教えていただき、とても分かりやすかったです。製品を作る手順として、鋳造、切削加工、検査というものがあることも分かりました。私はその中の検査というものを体験させていただきました。この検査というのは、製品に傷や汚れなどがないかを確認する所です。ここで見落として別の会社に送ってしまうとクレームがきてしまうと聞き、集中して取り組もうと思いました。

検査をする場所に移動して、少し自己紹介をした後すぐ仕事に取りかかりました。初めてのことなので何をすればいいのか分かりませんでした。しかし岡本さんが一つ一つ分かりやすく教えてくださいました。私は検査はただ傷や汚れがないかを見るだけの所だと初めは思っていました。だがそれだけではなく、製品の穴の大きさや幅なども調べていると知りました。このようなことを調べるために規格書というものを見ながらやりました。調べるための道具もたくさん種類がありました。その中からそれぞれの製品に合った大きさの道具を探さなければならず、分からない所も多くあって一つの製品を見るのに時間がか

かりましたが、だんだん慣れてきて少しスムーズにできるようになりました。
　二日目も一日目と同じ作業をしました。一日目はずっと岡本さんが隣で見てくれていましたが、二日目は自分で規格書を探して一人で検査をすることが多くなりました。一日目と比べるとだいぶスムーズにできるようになったと思います。
　二日間のインターンシップで仕事の大変さを身にしみて感じることができました。また、職場の人たちは、休みの時間は職場の人どうしで話していたけど、仕事が始まる時間になったら、すぐ切り替えて仕事に専念していました。あと一年半ほどしたら私たちも就職します。その前に今回のような経験ができてよかったです。この経験を、来年の就職活動に活かしていきたいと思います。そのためには、まず放課と授業の切り替えをしっかりすることをがんばろうと思います。
　今回の寿金属工業さんでの体験は、二日間という短い期間でしたが、色々なことを学ぶことができ、本当によい経験ができたと思います。ありがとうございました。

生活デザイン科　　２年１組　森口　樹里
（西尾市立幡豆中学校）

　私はインターンシップで寿金属工業に行きました。寿金属工業は車の部品を作っているところです。私は二日間とも検査の体験をしました。最初は見学で、とても簡単な仕事に見えましたが、いざやってみると一つ一つの部品を見るのにとても時間がかかりました。車の部品なので、丁寧に確認をしないとクレームや車の事故につながると分かりました。私が行った検査の所は他の会社に送る前の責任がある所で、任された時はドキドキして、もしミスなどがあったら、どうしようという不安もありました。私が部品を見た中でも少し傷がありました。一つ一ついろいろな角度から見ないと、どこが汚れているか、はがれているかが分からないので本当に難しかったです。同じ部品でも比べて見てみないと分からず、一つ汚れや傷があったら、前に見た物にはここに傷がついていたとかそこには汚れがついていたとか、細かく見るのが難しかったです。そして工場の中はかなり暑かったです。私たちは二日間だけでしたが、従業員の方たちは毎日毎日、暑いなか作業をしていて大変だと思いました。先輩方はとても優しくて、一つ一つの教え方も分かりやすかったです。先輩たちは行動も部品を見るのも早くて、追いつくのにも大変でしたが、これを毎日やっているなんてすごいと思いました。私が一番難しかったのは、規格書の見方です。棚の中にたくさんのファイルがあってそこから番号を探すのは本当に難しかったです。棚には紙に大きく何番から何番までと書いてあったけれど､数字がたくさんあり難しかったし、時間がかなりかかってしまいました。もっとはやく見つけられたらよかったのにと思いました。私は細かい作業が苦手で寿金属工業で行っている検査はとても大変でした。
　初めてのインターンシップでは普段学べないことが学べたので、とてもいい体験になりました。来年には就職と進学があって私は就職希望なので、インターンシップで寿金属工業で体験させてもらったことを参考にして、就職先を考えていきたいです。二日間ありがとうございました。

幡豆工業株式会社　　（西尾市寺津町）

生活デザイン科　　２年１組　宮地　結那
（西尾市立鶴城中学校出身）

私はインターンシップで幡豆工業へ行き、たくさんのことを学びました。例えば「安全第一」ということと、素直に指示を聞き作業をすることの大切さです。なぜなら安全に気を付けないと大きな災害や怪我の原因になるし、指示を聞かないと危険な目にあい、作業効率が悪くなるからです。最初に説明をしていただいたときに幡豆工業は働く人が気持ちよく作業ができるようによい環境作

りをされていると知りました。また、安全面に気を配っていました。工場内では鉄を溶かし、人の体に入ったらよくないものを扱っているので身だしなみが安全に繋がっていることも知りました。色々な面で思いやりのある行動をしているからよい職場ができるのだと思いました。

幡豆工業は主に水道に関わる仕事をしています。道路の下にある水道管、ダムにある水を調節するバルブ、マンホールの下にある消火ポンプなどを製造しています。初めて知りましたが、ポンプは地域によって形が異なっており、水道管にも地域差で異なった形の異型管といわれるものがあることを知りました。水道管の型をどうやって作っているのか説明を聞いた時は驚きました。接着剤、でんぷん、水、そして猫の砂と同じ成分が入った砂で固め作っているのだそうです。この砂で型を作ることによって固まる時間が短縮され作業効率が上がっていることがわかりました。また、物を作る時に必ず不要なところが出てしまいますが、捨てるのではなく再度溶かして使うというリサイクル方法で物が作られ、それが繰り返されていることもわかりました。

１日目は主に工場見学でしたが実際に作業をしたら想像以上に大変でした。暑い工場で長い時間、同じ体勢だということで大変でした。この工場では異型管の色を塗ったり、でこぼこを無くすため不要なところを削る作業を体験しました。

２日目は機械工場で文鎮と消化ポンプを作りました。文鎮作りは機械にプログラムを設定し作り、ポンプ作りはとても力が要る作業で大変でした。指導していただいた後にもう一度作りました。スムーズにポンプを作ることができました。

３日目は主に鋳造工場で表札作りをしました。この３日間の中で最も過酷な環境でした。猛暑が重なり、もともと暑いのにさらに暑くなりとても大変なところだと思いました。この作業はまず木型から作っていきます。発砲スチロールに彫刻刀で名前を掘りハンダごてで模様を作りました。こうして木型から製品までの過程を知ることができました。

三日間の体験を通じてさまざまなことを学びました。最も大切なのは何事にも真剣に取り組むことです。普段の生活でもこれを意識するようにしたいです。

小出道治税理士事務所　　（西尾市一色町）

生活デザイン科　２年１組　清水　凜音
（西尾市立一色中学校出身）

私は小出道治税理士事務所で三日間、インターンシップをさせていただきました。
第一印象は、職場の雰囲気がとてもよいと感じました。事務所なので、静まり返っているイメージがありましたが、適度な談笑もあり、楽しそうな雰囲気でお仕事をされていました。
一色高校の卒業生の方もいらっしゃいました。私の隣の席の高須さんが三日間、私の指導をしてくださいました。

事務所内では、元帳締めというファイルを作る作業をしました。力がなくて何度か失敗している私に優しく丁寧に教えてくださいました。しかし、何度やっても出来なかったので、なんだか申し訳なくなり、泣きそうになってしまいました。時間はかかりましたが、二つのファイルを作ることが出来ました。完成したときは、とても嬉しかったです。

三日間事務所内の誰かが常にそばにいてくださいました。お昼休みは、一日目は高須さん、二日目は一色高校の卒業生の方、最終日は所長の小出さんと原田さんと共に過ごしました。緊張していたため、少し無愛想になってしまい、後悔しました。

次に伝票計算の作業をしました。電卓での計算を二回やり、その二回の合計が一致していることを確認しながら進めていきました。ミスをしないように気を付けて作業をしたけれど、一回目と二回目の合計の違いが何度かありました。迅速かつ正確に計算するためには、集中力が必要だと思いました。私はコミュニケーションのとり方が、あまり上手ではないと改めて実感しました。

インターンシップに参加すると決まってから、「きちんと大きな声を出しなさい。」と親には、何度も言われていました。自分では、勇気を出して大きな声を出したつもりでしたが、普段から声が小さいほうなので、あまり出ていなかったのかもしれません。三日間、きちんと挨拶すること、しっかりと頭を下げることを心がけて、インターンシップに参加しました。

最終日は、西尾税務署に連れて行っていただきました。税務署の署長さんから、税の仕組みや内部部局の説明などの話をしていただき、所内のさまざまな場所を見学させていただきました。話を聞いているときは、首を縦に振って頷くだけで、「はい」と返事が出来ませんでした。また、税務署は、企業や個人の暮らしの背後に存在する「税」に携わり、国民の安心と信頼につながる仕事であるという話を聞き、興味が湧きました。税務職員は、高校卒業の資格でも受験できると聞いたので、進路選択の一つに加えたいと思いました。この頃には、職場にも少しずつ慣れ、笑顔で接することが出来るようになりました。

今回のインターンシップを通じて、自らのコミュニケーション能力を高める必要があると強く思うようになりました。実習中は人から話しかけられるのを待っていたり、自分から話しかけようかどうかを迷うことが何度もありました。自分自身の人見知りな性格から消極的になっていました。高校生である間に、改善できるようにしていきたいです。何事も他人事のように知らん顔せず、自ら考え、積極的に行動することを心がけて残りの高校生活を過ごそうと思います。

高須病院　　（西尾市一色町）

普通科　　２年６組　小林　新
（西尾市立西尾中学校出身）

僕は今までアルバイトなど働くということをしたことが無く、インターンシップ前はとても不安でした。自分から積極的に動いたり質問したりすることができるか心配でした。

一日目は病院の全体の説明を受けました。その中で看護長さんの「ありがとうございましたと言われるのが一番うれしい」という言葉が一番印象に残りました。病院には患者さんに合わせていろいろなベッドや車椅子があって、お年寄りだけでなく障害がある方も快適に生活ができるよう工夫がたくさんされていることに驚きました。午後からは検査科の見学をさせていただき、血液型の検査の仕方を教えていただきました。臨床検査技師という仕事についても話をしていただきました。今まであまり知らなかった仕事なので知ることができてよかったです。職員の皆さん、患者さんやその御家族の方へのあいさつや返事の声が少し小さい声になってしまったかなと感じました。

二日目は介護医療院の見学をさせていただきました。僕は男性の看護師は女性の看護師と比べて力仕事ができるから重宝されるといろいろな人から聞いていたけれど、実際どんな時に仕事をするのだろうと疑問に思っていました。見学をする中で、大きな器具やベッドを移動する時に力仕事をすることが分かり、疑問を解消できてよかったです。透析室の

見学では腎臓の病気の大変さや患者さんが一週間の合計で十二時間も透析をするのはとても負担になることが分かりました。手術室見学では看護師の方が執刀医の先生の手伝いや、手術道具を清潔に管理する大変さを学びました。一日目に比べて、二日目は少し緊張がほぐれてあいさつや返事がしっかりできたと思います。

三日目は患者さんが家に帰ることを目標にしたリハビリを見学させていただきました。理学療法士の方が実際に患者さんにリハビリをしているところを見せていただきました。自分も患者さんとのリハビリに参加させていただいた時、足が不自由な患者さんが長い時間立っていられるようにタイムを測りながらしりとりをしたら、ベストタイムがでて自分のことのようにうれしくなりました。積極的に行動したり分からないところを質問をすることができました。

看護師を目指すにあたり病院での貴重なインターンシップを体験させていただき、担当者の方々にも丁寧に教えていただき感謝しかありません。今回のインターンシップの経験を大切にし、自分の将来に役立てられるようにしていきたいです。

普通科　　２年６組　中村　芽生
（西尾市立平坂中学校出身）

私は将来、看護師になるか保育士になるかで迷いがあり、看護の現場の雰囲気など実際の様子を見て聞いて学びたかったので今回のインターンシップに参加しました。

３日間看護の職場体験をさせていただいて強く感じたのは、責任の重さです。実際に患者さんの状態やカルテについての説明を受け、小さなミスが大きなミスにつながるということを感じました。

また、患者さんとのコミュニケーションは思っていた以上に難しかったです。普段、近くにいる人に話しかけるのとは違い、ほとんどの方が耳が遠くなっていて、大きな声でゆっくりと話しかけましたが、聞き取るのが難しかったです。病院でのコミュニケーションの難しさを痛感しました。会話の話題はほとんど患者さんの方から出してくださり、もっと自分からもどんどん積極的にコミュニケーションがとれていたらなと少し反省しました。それでも患者さんは笑顔で話かけてくださり、一緒に手遊びもして、本当にうれしかったです。

食事介助もさせていただきました。もういらないと言われたり、全然食べていないのに、いらないと言われたらどうすればいいのか、少し不安だったのですが、近くにいた看護師さんが助けてくださいました。無理矢理食べさせるようなことはもちろんだめですが、「もう食べられないいらないよ」と言っても食べられる患者さんがほとんどで、ゆっくりゆっくり食べさせてあげればよいということを学びました。食事介助の時も何度もありがとうと声をかけてくれる優しい人たちばかりで、看護師さんも患者さんも温かいとてもよい病院だなと思いました。

リハビリの見学では、実際にリハビリ中の患者さんとそれを支えている看護師さんの様子を見学しました。一生懸命頑張っている患者さんが安心して補助を任せられる頼れる存在になりたいと思いました。

検査科、透析室、手術室、放射線科の見学もさせていただきました。あまり馴染みがなくて名前を聞いただけでは分からないものもありましたが、見学して説明もしていただき、どれも本当に重要な場所ばかりだと学ぶことができました。あまり表には出ずに裏で作業するような方々の仕事も身近に感じられて、大変勉強になりました。

今回のインターンシップで、貴重な体験をたくさんさせていただきました。病院の雰囲気も張りつめた感じはなく、とても温かくて看護師はやりがいのある仕事だと感じました。もし将来看護師になったら高須病院で働く方たちのように、不安でいっぱいであろう患者さんたちに、明るく優しく笑顔で接することができるようになりたいと思いました。ここでの経験を踏まえ、自分の将来をしっかりと考えていきたいと思いました。

高須ケアガーデン　（西尾市一色町）

生活デザイン科　２年１組　白井　美沙希
（安城市立東山中学校出身）

一日目は、レクリエーションやシーツ替え、食事介助、車椅子体験、夏祭りのための準備を主にしました。初日でとても緊張しましたが、スタッフの皆さんが明るく接してくださったので落ち着いて取り組むことができました。コミュニケーションを取るために、お名前を覚えるのに苦労しました。また、何を話題にしていいかわからないため話かけてくださるのを待つことが多くなりました。午後は、夏祭りの壁に飾るディスプレイを作りました。レクリエーションでは、棒を使ったり、しりとりをしたり踊ったりしました。慣れない仕事に緊張し過ぎてしまいましたが、笑顔だけは忘れずに取り組みました。食事介助では、ある一人の利用者さんがお昼ご飯を食べてくれず、３人で試行錯誤をしましたがとても大変でした。

二日目は、一階でリハビリのお手伝い、シーツ替え、利用者さんとエプロンをたたみ、口の運動、食事介助、コミュニケーション、レクリエーション、おやつ、帰りの会の一連の仕事をしました。リハビリでは、車椅子の方々や歩ける方々と棒やゴムを使ったり、足に重りを付けて運動をしました。お年寄りの方でしたが、私たちでも軽く息が切れるよう

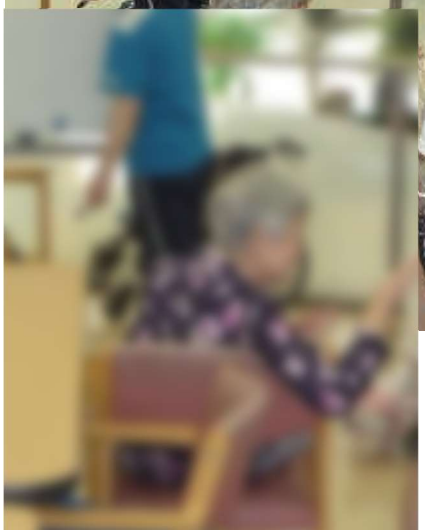
なことを平然と行っていて、すごいと思いました。シーツ替えでは、二回目だったのですが想像以上に難しいのでスタッフの方にこうすると簡単だよとコツを伝授していただき、とてもスムーズにできるようになりました。コミュニケーションについては、かなり話せるようになり常時、笑顔を保つことができました。レクリエーションの面では、Ａ，Ｂ，Ｃの三チームに分かれて、別々の運動をしました。利用者の方々がとても明るく笑いの絶えない時間でした。帰りの会が終わった三時半過ぎには、皆さん笑顔で帰宅の途に着きました。

三日目は、入浴介助、運動、口の体操、食事介助、口内のそうじ、体操など高度なことにも挑戦させていただきました。またゴムを使って多種多彩な運動をしました。入浴介助では、利用者さんの頭を乾かしました。しかし寝たままの状態で頭を乾かすことがどれほど大変なことか身をもって知りました。食事介助では、口にご飯を入れていいタイミングがわからず苦戦すると同時に、口内の掃除が行き届いていなければなりません。細心の注意が必要でした。講習では、移乗のやり方の講習でした。

とてもためになるお話がたくさんありました。改めて介護の職員の方々はすごいなと実感しました。

普通科　２年６組　高須　彩花
（西尾市立一色中学校出身）

私は将来、介護系の仕事に就きたいと思っています。だから今回のインターシップに参加し、三日間高須ケアガーデンで貴重な体験をさせていただきました。将来、自分がこの職業に就いたと仮定して、今の自分に何が不足しているのかが明確にわかりました。さらに「仕事上」の基本中の基本にも気付きました。仕事の基本は挨拶です。挨拶ができないと職場のスタッフと利用者の方々とコミュニケーションを取ることは不可能です。職員の方々をよく見ていると、利用者の方々に挨拶を大きく元気な声ですることをきっかけにして、まずコミュニケーションを取っていて、「挨拶で第一印象を好印象にすること」が第一歩でした。介護職特有の「挨拶」の難しさを思い知ったことは沢山あります。



初対面の高齢者の方、特に反応や認識に時間がかかる介護の現場での挨拶の効用を知りました。しかし、利用者の方とどのような話をしたらよいのか、緊張で言葉が出ない時はどうすればよいのか、一日目は全くわかりませんでした。私は二日目の午前中は職員の方と利用者の方が話している時、どのようなことをどのように話しているのかを傍らで見て学び、午後のコミュニケーションを取る時間に活かしました。積極的に行ったことは二つあります。一つ目は自分から利用者さんの所へ行き、何か身近な小さな話題から話をすることです。話をしたことで緊張がほぐれ、利用者さんも笑顔で話をしてくれたのでうれしかったです。二つ目は周りをよく見ることです。車椅子の方が通ろうとしている先に何かが置いていると通ることができずに困ってしまいます。そこで予め移動させると「ありがとうね」と言われ、とてもうれしかったです。

他にも意識して実行したことはたくさんありましたが、この２つを主に意識したことによってコミュニケーションの取り方のコツが少しずつわかってきたので、これからも私の学校生活においても活かしていきたいと思いました。

今回のインターシップで私が一番苦労をしたことは「食事介助」です。ご飯を利用者さんの口へ運んですぐに食べてくれる方もいれば、なかなか食べてくれない方いて、どうすれば食べてくださるかを熟考しました。考えた結果、自分の口も開けて「食べてほしい」ということを伝えるのです。行ってみたら「相手のペースに合わせる」大切さを学びました。自分はよく自分に合わせてほしいと思ってしまうことがあったけれども、今回のインターシップを通して、相手に合わせることの大切さが分かりました。

自分の人生も他人の人生も豊かなものにするために、他人とのコミュニケーションの第一歩は明るい挨拶から始め、相手のペースに合わせて自分の表情を作ることを大切にしていきたいです。

普通科　２年６組　外山　結香
（西尾市立一色中学校出身）

３日間、高須ケアガーデンで色々なことを学び体験することができました。

１日目、初めて自ら車イスに乗る体験をしました。たった一人で車イスを動かしてみた時両手だけで、又は両足だけで動かすのは簡単でしたが、右手右足を使わず左手左足で車イスを動かすのがとても困難でうまく進まなかったです。片手片足の状況の入所者の方の車イスの一人乗りは想像以上に困難です。次に自分が車イスを押したり、押してもらったりしました。自分が押す時は、今までにない感覚でドキドキしました。押しながら乗っている人の足や手がタイヤに入らないか、段差はないかも注意しなければならないので緊張しました。自分が乗る時は、少し石を踏んだだけでも振動を大きく感じて怖かったです。自分自身が体験してみないと分からないことがたくさんあると思い直しました。

２日目はリハビリの様子を見たり、利用者の方と体操をしたり、食事介助を行いました。リハビリで私は車イスの方と一緒に、足の裏の運動や頭の体操、歩く練習を体験しました。車イスの方はずっと乗っていると思っていたけれど、体操の時はイスに移動したり、立てるようにリハビリをするなど頑張って歩こうとしていると知り、応援したくなりました。昼には初めて食事介助をして、口に入れる量とスピードや順番が分からなくて心配だったけれど、時々笑顔で食べてくれたので安心しました。

３日目の朝、入浴の様子を見学しました。髪を乾かす時、温度は熱くないか痛くないか

と、とても心配でした。寝たきりの人の髪を乾かす時は、頭を上げることもできなくて、職員の方に手伝ってもらい、何とか乾かすことができました。昼は２日目と違う方の食事介助をして「あなたの笑顔で信用は作られるよ」と言われてその入所者の方のお言葉がとても心に残りました。おやつの時間も食事介助をしました。２日目の昼に食事介助した方で、その時は昼食時の「ありがとう」の一言だけでした。その一言だけでうれしかったけれど、おやつの時に同じ方から、「あなたの笑顔を見ながら食べるともっとおいしいよ」と言ってもらえて本当にうれしかったです。

介護の仕事は、命を預かっている責任があり、一人でやる仕事が多いということは絶対に失敗は許されない厳しい現場だと思います。しかし、「ありがとう」の一言でやる気になれるし、とてもやりがいのある仕事だと思いました。普段の生活では学ぶことができないことを学ぶことができました。本当にインターンシップをさせていただく機会に恵まれてよかったです。

カネサン建設株式会社　　（西尾市一色町）

普通科　　２年２組　杉﨑　友哉
（西尾市立一色中学校出身）

僕は、カネサン建設へインターシップにいきました。一日目の午前中は、土のうの袋から土を出すという作業をしました。作業がとてもつらくて、指や腰が痛くなりました。午後からは、下水道工事の手伝いをしました。下水道工事のふだんは見られない所を見学できてとても興味深かったです。また、工事の最後に行うアスファルトの温度が百四十度と聞き、その熱さにびっくりしました。一日目の反省は挨拶が自分からできなかったことです。この反省を二日目へ生かしていきたいと思いました。

二日目は、屋外での仕事を体験しました。下水道工事の一連の内容がわかり、勉強になりました。午後から地面を叩くランマーという機械をやらせてもらいました。実際に機械を動かしてみると真っすぐに進めるのが難しくて、上手に扱うには力が必要ということを実感しました。二日目を終えて、一日目の反省をいかして挨拶はしっかりできたと思います。一日目と比べるとてきぱきと行動することができたと思います。二日目の反省は、大きな声が出せなかったことです。この反省を三日目へ活かしていきたいと思いました。

三日目は、二日目と同じ下水道工事をしました。この日は、午前中から強い日差しでとても暑かったです。暑い中で作業するために作業服にファンが付いていました。午前中の

下水道工事で出た土は一色町へ運ばれていきました。市外から運んでいると知り驚きました。

インターンシップの三日間を通して、多くのことを学ぶことができました。中でも特に大切だと感じたことが二つあります。一つ目は、体調管理の大切さです。外で働くということは暑さや寒さの中で作業をこなすということです。今回のインターンシップは気温が三十五度近くある現場で一日中動いていなければならず、大変でした。こまめに水分補給をしました。二つ目は、現場で活躍するにはさまざまな種類の技術、技能が必要だということです。大型トラックやショベルカーなどの重機を扱うには免許が必要ということもわかりました。将来どのような職業に就くにしろ、専門的な技能が必要になるので今できる勉強をしっかりしたいです。

最後に、三日間のインターンシップを経験してこの貴重な体験を来年の就職につなげることができればいいと思います。三日間ありがとうございました。

普通科　　２年２組　田中　裕大
（西尾市立平坂中学校出身）

私はインターシップで、カネサン建設に行きました。私はまだ具体的な進路希望が定まっていなかったので、一度「働く」ということを体験したいと思い参加を決めました。

インターシップは３日間で、一日目はまずカネサン建設について詳しく説明していただきました。私は今まで建設業は家を建てる仕事だと思っていました。しかし、実際はそうではなく、家を建てるのは「建築」で、「建設」は主に海や川の堤防作りや道路の拡張工事、下水管の取り付けなどを行うのだと教えていただきました。思っていたのとは少し違っていたので驚きましたが勉強になりました。そして、説明の後は車で移動し工事現場の見学や、実際の仕事を体験しました。午後からは自動車で移動し、下水管の取り付け工事のお手伝いをしました。一日目の作業をした感想は中学生の頃に受けた職場体験と違い仕事の辛さがよくわかりました。反省は仕事を体験している最中に怪我をしてしまって職場の方達に心配させてしまったことです。今後は気を付けたいと思いました。

二日目は、一日中外で下水管の取り付け工事をしました。炎天下での作業だったので、このような作業を毎日しているのかと驚かされました。作業中は見たことのない機械を使わせてもらうことができました。使ってみると、とても重くて自分の力ではなかなか動いてくれませんでした。仕事場は明るい方が多くて、すぐに馴染むことができました。とて

も明るく積極的に話しかけてくださり、作業中暑くても、前向きに仕事に取り組むことができました。二日目の感想はこの一日で見たことのない機械を見せてもらったり使わせてもらったことと、工事現場の皆さんは、明るい方ばかりだったことです。反省は、言われたことを早く取り組めなかったことです。

そして三日目は、二日目と同じ下水管工事でした。三日目は特に暑くその日は三十五度もある危険な暑さの中での作業でした。こまめに水分補給しつつ二日目と同じに作業をしていきました。職場の方と一緒に昼食をとり、それから作業の続きをして無事にインターンシップを終えることができました。

最後に、カネサン建設は優しい方達がたくさんいらっしゃいました。社長さんがいらっしゃった時は緊張で動けませんでした。この体験した三日間はとてもいい経験になりました。この三日間で経験したことをこれからの生活や、進路にたくさん生かして生きたいと思います。

（令和元年 10 月 29 日発行　愛知県立一色高等学校）